

公益財団法人 綿貫国際奨学財団

2012 年度奨学生募集要項

I. 奨学金制度の概要

1. 支給金額

学費及び生活費として、下記の金額を支給する。
月額 150,000 円

2. 奨学期間

原則 1 年間 (4 月～翌年 3 月) ただし、継続申請や再応募を認めるので、2 年以上受給することも可能。

3. 申請者の区分

申請者は下記のように区分する。

- ①新規申請者 当財団の奨学金を受給したことの無い者。
- ②継続申請者 現在当財団の奨学生で、来年度進級予定の者。
- ③再応募申請者 現在当財団の奨学生で、来年度、上級課程進学予定の者。
以前、当財団の奨学金を受けたことのある者。

推薦人数 3名

※ この他、延長申請者として、1 年以内に指導教官から博士号取得の見込みがある旨の推薦を受けた現奨学生について、6 ヶ月程度の延長を認める場合があります。

4. 支給停止等の要件

下記のいずれかに該当する場合は、奨学金の支給を停止、又は奨学生の資格を失う。

- ①当該大学の学籍を失ったとき。
- ②病気その他の事由により、修学・研究を継続する見込みのないとき。
- ③学業成績不良、又は指導教官から修学・研究の継続に不適格と認められたとき。
- ④応募書類等に虚偽の記述が認められたとき。その他、当財団の奨学生として、ふさわしくない素行のあったとき。
- ⑤その他の異動により、応募資格に該当しなくなったとき。

5. 奨学金支給時期

- 6月中旬頃 (4か月分)
- 8月25日頃 (2か月分)
- 10月25日頃 (2か月分)
- 12月25日頃 (2か月分)
- 3月中旬頃 (2か月分)

II. 応募資格

1. 国籍と在留資格

日本以外の国籍を有し、アジア太平洋地域諸国 (V. 応募者国籍の範囲) から、在留資格「留学: College Student」で来日している者。(家族に日本在住の外交官や駐在員、及び日本国籍者がいる者は応募資格が無く、支給開始後に該当することになった場合は、その時点で支給停止。) ただし、採用上のバランスを保つため、国籍による募集制限を行う場合がある。

2. 在籍大学

当財団が推薦を依頼する大学の、大学院博士課程 (前期・後期)、及び医・歯学系博士課程に在籍する者。留年者を除く。(ただし 2012 年 3 月 31 日迄に次年度入学が決定する者、あるいは 2012 年 4 月以降に進級見込みのある者を含む。)

3. 資質

優秀な学力と穏健な性格をもち、心身ともに健全な者。将来、グローバルな視点をもった指導者を目指し、国際理解と親善に貢献する意欲のある者。日本語によるコミュニケーションに支障のない者。

4. 奨学金の併給

他奨学金の併給は認めない。現在受給中の他奨学金の支給期間が 2012 年 4 月以降に及ぶ場合は、その奨学金を辞退する者。

5. 交流事業への参加

年 2 回の「奨学生の集い」に参加すること。奨学金終了後も当財団との交流を継続する意志のあること。

6. 経済的に困窮している事が客観的に認められること。

III. 応募方法

1. すべての応募者は、指定大学(在籍中、又は進学予定)の推薦を受け、応募書類を作成し、指定大学を經由して提出すること。

2. 応募書類

A. 所定用紙

- ②は
要★
- ①奨学金申込書並びに奨学生推薦書
 - ②指導教官の推薦状
 - ③研究計画書又は研究状況報告書(2 枚以内)

【応募締切日(奨学金申込書・財団指定用紙)】 ※ラウンジでのTAによる受付はできません。

国際教育事務室(駿河台キャンパス) 10月7日(金) 17:00まで

国際教育事務室(和泉キャンパス) 10月7日(金) 17:00まで

生田キャンパス課(生田キャンパス) 10月7日(金) 17:00まで

*「大学推薦」の奨学金に応募する場合は、「一斉面接」を受けていることが条件となります。

* 大学推薦用の奨学金申込書(黄色の用紙)は不要です。問い合わせ先: 国際教育事務室 tel 03-5300-1542

* ★印の書類については、大学推薦が決定した者のみ提出します。申込時には不要ですが決定後すみやかに提出できるよう準備してください。

また推薦状が必要な奨学金の場合は、推薦決定後すみやかに推薦状が提出できるようにするため、事前に指導教員等に推薦状の作成依頼をしておくこと。

IV. 選考と採用

- 1. 選考は、書類選考と面接試験により行い、採用は選考委員会を経て、理事会で決定する。
 - 2. 書類選考結果は、2011 年 12 月下旬～2012 年 1 月頃通知予定。(新規応募者と在籍大学に対し一次合格通知(面接通知)または不合格通知、継続応募者と在籍大学に対し内定通知)
 - 3. 面接試験は、2012 年 1 月頃を予定。
 - 4. 面接試験結果は、面接実施者と在籍大学に対し、2012 年 2 月頃通知予定。
 - 5. 最終決定は、2012 年 3 月の採用資格確認を経て、4 月末頃を予定。
- ※ 応募書類は返却しません。また、選考内容に関する問い合わせには一切応じません。

V. 応募者国籍の範囲

パキスタン	ネパール	インド	ブータン
スリランカ	モルジブ	バングラデシュ	ミャンマー
タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム
フィリピン	インドネシア	マレーシア	ブルネイ
シンガポール	台湾	韓国	中国(香港を含む)
モンゴル	オーストラリア	西サモア	ニュージーランド
パプアニューギニア	ソロモン諸島	その他太平洋上諸国	

※ 当財団では国籍の偏りがないように、できるだけ多くの国から留学生を採用する予定です。2012 年度は、京都、名古屋、九州、東海、東京の 5 大学について、新規推薦の場合は中国を募集範囲から除外します。国籍の制限につきましては、ご理解・ご協力くださいますようお願い致します。

学部生用	<input type="radio"/>
大学院生用	<input type="radio"/>

公益財団法人 綿貫国際奨学財団
奨学金申込書並びに奨学生推薦書

2012
平成 24

1. 姓 名

母国語による姓名
(漢字名) ()

カタカナ読み

英語表記

西暦

2. 生年月日 年 月 日生 (来年3月31日現在) 満 歳 男 女
(以下、すべて西暦で記入)

3. 国 籍 (日本への最初の入国年月: 年 月)

4. 健康状態

現在 良好 普通 やや不安 既往症

5. 現住所 〒()

(寮、アパート、下宿名記入)

自宅電話 () - (直通・呼出) FAX有

E-mailアドレス

学内連絡先 電話 () - (内線)

配偶者名 別居の場合は電話番号 () -

6. 母国住所
(英語表記)

電話

7. 現在の在籍大学 (入学年月 年 月)

大学 学部 学科 年次

- 研究生
- 修士 博士前期
- 専攻 博士 博士後期

大学 研究科 専攻 年次

指導教官名 (大学院のみ) 指導教官の学内電話番号 () - (内線)

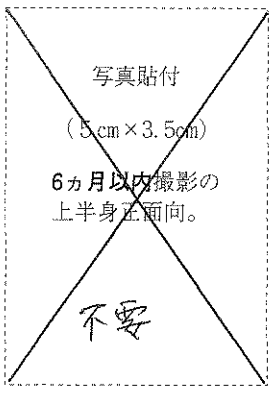
8. 来年4月からの在籍予定大学及び年次

大学 学部 学科 年次

- 修士 博士前期
- 専攻 博士 博士後期

大学 研究科 専攻 年次

上級課程進学の場合 合格済 (年 月 日)
 合格予定 (年 月頃)



9. 学 歴 (課程欄を○印で囲む)

教育機関の種 類	学校名及び所在地	正 規 の 修学年数	入 学 及 び 卒 業 年 月	専攻科目	取得した学位 或いは資格
高 校	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
大 学	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
大 学 院 (修士・研究)	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
大 学 院 (博士・修士 研究)	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
()	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
そ の 他 (日本語学 校等)	学校名 所在地	年	入学 年 月 卒業 年 月		
日 本 語 能 力 試 験			年 月 取得		級

10. 職 歴 (兵役については、勤務期間のみ記載すること)

勤務先及び所在地	勤務期間	役 職 名	職 務 内 容
	年 月から 年 月まで		
	年 月から 年 月まで		
	年 月から 年 月まで		
	年 月から 年 月まで		

11. 日本の教育機関において、これから取得しようとする学歴計画

(上級課程に進学を予定している者は、必ず記入すること。)

① 進 学 希 望	a. 博士前期 (修士) b. 博士後期 (博士) c. 博士 (医・歯)
② 博 士 号 の 取 得 希 望	有・無・未定 年 月 取得予定
③ 帰 国 予 定	年 月 頃

12. (1)日本留学後の仕事または職場の予定 (希望でも可)

12. (2)母国への具体的な貢献策について (必ず記入)

13. 経済状況（今年4月～9月について）

① 1ヵ月の平均収入額

仕送り額	月額	_____ 万	_____ 千円	(仕送り元 _____)
奨学金	月額	_____ 万	_____ 千円	(奨学金の名称 _____ 受給期間 _____ 年 _____ 月～ _____ 年 _____ 月)
他からの援助	月額	_____ 万	_____ 千円	(援助者との関係 _____)
配偶者の収入	月額	_____ 万	_____ 千円	(収入の内容 _____)
アルバイト収入	月額	_____ 万	_____ 千円	(アルバイトの内容 _____)
合 計		_____ 万	_____ 千円	

②今年度の授業料年額 _____ 万 _____ 千円 (そのうち、前期の免除額 _____ 万 _____ 千円)

③来年度入学金の予定額 (上級課程進学者のみ) _____ 万 _____ 千円

④家賃月額 (アパート・寮・下宿・その他) _____ 万 _____ 千円

14. 他の奨学団体（文部省等）への来年度奨学金の応募予定（当財団に採用されなかった場合も含む）

団体名 1. _____ 2. _____ 3. _____

15. 過去に受けた奨学金の名称及び期間

名称 _____ 年 月～ _____ 年 月
 名称 _____ 年 月～ _____ 年 月
 名称 _____ 年 月～ _____ 年 月

16. 家庭状況（既婚の兄弟姉妹も含め、家族全員を記載すること。退職・死亡した場合は、元勤務先）

家族氏名	続柄	年齢	現住所	勤務先又は学校名	備考
	父				
	母				
	兄・弟				
	姉・妹				
	配偶者				
	子供				

17. 日本人の知人・友人（緊急連絡先）

(1) 氏 名 _____ (印)

(2) 住 所 (〒 _____)

_____ 電話番号 (_____) - _____

(3) 職 業 _____ (4) 本人との続柄 _____

公益財団法人 綿貫国際奨学財団
御 中

私は、募集要項に記載された内容を理解し、貴奨学生として採用していただきたく、申請いたします。
申請書類の記載事項に虚偽が発見された場合、貴会の奨学金の支給を取りやめられても、不服を申し立てません。

申請年月日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

申請者署名 _____

申請者を貴財団の奨学生として採用していただくよう推薦いたします。
採用の可否決定については貴財団の選考結果に異議を申しません。

推薦大学所轄部名

国際連携部国際教育事務室

(印)

内容についての
問い合わせ先

担 当 者 名

電 話 番 号 (_____) - _____ (内線 _____)

F A X 番 号 (_____) - _____

<提出書類記載上の注意>

(共通項目)

- ① 黒インク、黒ボールペンを使用し、原則として日本語で正確に読みやすく記載すること。
ただし、6の母国住所については英語表記とする。(代筆は厳禁)
- ② 西暦を使用すること。
- ③ 地名・名称等は省略せず、正式名で記載すること。
- ④ 選択肢の部分は○で囲むか、□に✓を記入すること。
- ⑤ 枠内に書ききれない場合は別紙を添付すること。
- ⑥ 応募書類がそろっていない場合は受付をしません。

(奨学金申込書並びに奨学生推薦書)

1. 姓名……「母国語による姓名」が漢字以外の方で、漢字表記も可能な場合は、()内に記入して下さい。
 5. 現住所……「学内連絡先」は、研究室や研究科事務室などの急ぎの場合に、連絡可能な場所を記入して下さい。(学部生は、学生課・留学生課・国際課などでも可能。)
 6. 母国住所……英語で記入して下さい。
 9. 学歴……学校区分にしたがって、現在までの卒業校と在籍校をすべて記入して下さい。
 10. 職歴……6ヶ月以上勤務したものをすべて記入して下さい。兵役については勤務先及び所在地の欄に「兵役」と記入し、勤務期間のみ記入して下さい。
 11. 日本の教育機関において、これから取得しようとする学歴計画……上級課程に進学を予定(希望)している方は、進学希望、博士号の取得希望について必ず記入してください。また、帰国予定日については全員が必ず記入して下さい。(帰国年月が未定の場合は、おおよその年度でかまいません。)
 - 12(1). 留学終了後の仕事又は職場の予定……将来の進路予定・希望は必ず記入して下さい。
 - 12(2). 母国への具体的な貢献策について……将来、母国発展のために出来ること、これから取り組みたいと
思っていることなど、具体的に記入して下さい。
 14. 他の奨学団体への来年度奨学金の応募予定……併願状況は必ず記載して下さい。
 15. 過去に受けた奨学金の名称及び期間……成績評価の資料にもなりますので、すべて記入して下さい。
 16. 家庭状況……両親などが既に死亡・退職している場合でも、死亡・退職前の職業を記入して下さい。
結婚して家を出た兄弟姉妹についても、すべて記入して下さい。
 17. 日本人の知人・友人……本人の帰国中などに連絡をとりたい時に使用する「5. 現住所」以外の緊急連絡先。
- ※ 募集要項に記載した内容については、応募者全員がよく理解したうえで書類を作成したものと取り扱います。なお、書類作成上の疑問については、原則として回答いたします。提出書類に記載された事項についての秘密は厳守いたしますが、併願についての他財団、大学等の問い合わせに対し、最低限必要と判断される内容については回答することがありますので、ご了承下さい。